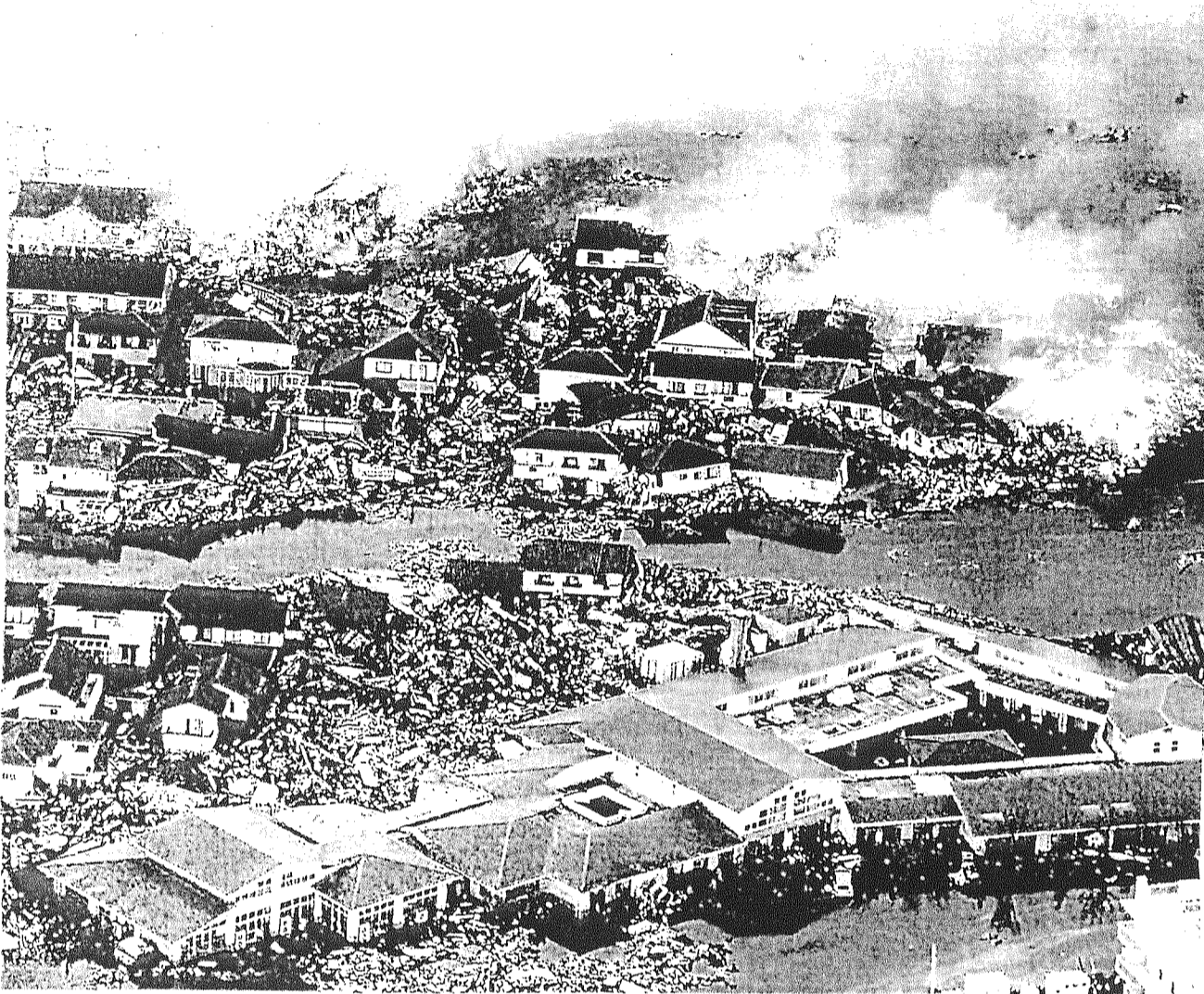


東日本巨大地震

M 8.8 死者・不明多数

宮城震度7 10メートル大津波と火災

11日午後2時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード8.8の国内観測史上最大の巨大地震が発生、日本から関東にかけて強い揺れと津波が襲った。気象庁によると宮城県栗原市築館で震度7、仙台市など宮城県各地、福島、茨城、栃木各県で震度6強を記録した。震源の深さは約10キロ。この東日本巨大地震により最大10メートルに達したと見られる津波や、多くの火災が発生、読売新聞の集計では、午後7時半現在、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉、東京などで少なくとも死者35人、負傷者、行方不明者多数が出ている。岩手県釜石市、大船渡市などでは津波により家屋400戸以上や車が大量に流れ、同県山田町で死者多数との情報があり、大船渡市末崎町の細浦地区は全体が津波に流れられ壊滅状態という。福島県相馬市の海岸線でも土砂崩れが相次ぎ、行方不明者が多数出ている。



火の手が上がる住宅街。周りは津波に流されている（11日午後5時35分、宮城県名取市で、本社へりから）＝菅野清樹撮影

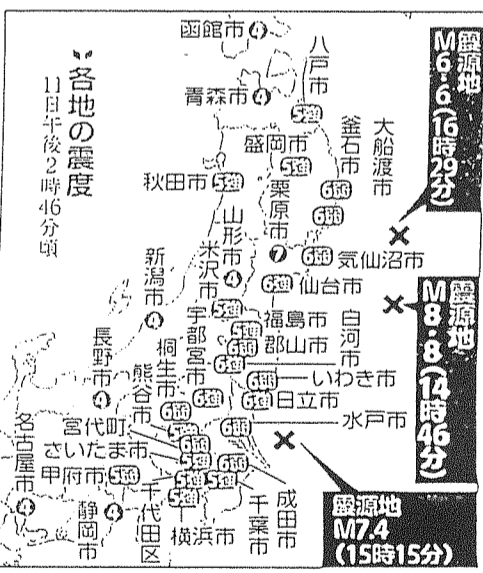
津波は宮城県内にも広範囲に押し寄せ、仙台市では海岸線から約10キロ離れた地点まで到達し、ビル、家屋や車が多数流されている。仙台空港の滑走路も水没した。気象庁は今回の地震を、「東北地方太平洋沖地震」と命名。その後も震源地が太平洋沖を南下する形で震度6弱から5強の地震が続いている。

建屋から煙が出ているのが確認された。高速道路は、首都高や東北道、常磐道、東名など東北や関東のほぼ全域で通行止め。仙台駅では新幹線が脱線したほか、首都圏、東北の在来線は11日終日の運行を取りやめた。首都圏では自宅に戻れない「帰宅難民」が大量に出ている。電話回線も携帯電話を中心に東北から関東にかけて通じにくい状態。岩手県、宮城県、福島県から災害派遣要請があり、陸海空自衛隊が出動、救援活動などにあたっている。

複数震源 連動か

極めて大きな被害をもたらした今回の地震は、マグニチュード(M)8.8と巨大地震に分類される。高い確率で発生が想定された宮城県沖地震では予測規模がM7.5で、今回の地震はその約90倍とされる。

ニチュード(M)8.8と巨大地震に分類される。高い確率で発生が想定された宮城県沖地震では予測規模がM7.5で、今回の地震はその約90倍とされる。



- ▽震度7 宮城県栗原市
- ▽震度6強 宮城県登米市、大崎市、名取市、仙台市、塩釜市、東松島市、福島県白河市、須賀川市、二本松市、茨城県日立市、笠間市、筑西市、銚田市、栃木県大田原市、宇都宮市、真岡市

古村教授は「太平洋の宮城県沖から茨城県沖の海底下にある複数の震源域が連動し、南北方向に長さ200〜300キロ、東西100〜150キロに及ぶ広い範囲で岩石が破壊したのでは」と推定している。

THE YOMIURI SHIMBUN

読売新聞

2011年(平成23年) 3月12日 土曜日